

令和4年度 学校評価シート <前期中間報告>

*7月「児童 学校生活アンケート」および教職員アンケートを実施。その結果を踏まえ、総合的に判断した評価を以下に示しました。

*評価 :A:「十分に達成された」、 B:「おおむね達成された」、 C:「やや達成されなかった」、 D:「達成されなかった」で評価しました。

上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
進んで学び 豊かな心をもって たくましく生きる子 <めざす姿> 自ら気づき 友と考え のびのびと表現する子ども	○かしこく《学力向上》 問いをもち 友と関わりながら 追究する子	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、1学期に村瀬公胤先生（一般社団法人麻布教育研究所所長）の御指導を受けることができた。全職員で授業改善に取り組んでいる。その成果として授業中に友と関わりながら追究する子が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちが考える授業」を目指し、授業改善に取り組み始めた段階である。2学期にも村瀬先生にご指導をいただく予定である。友と関わることで追究が深まる授業に向けて、今後も研修していきたい。
	○やさしく《関係力向上》 相手のことを考えて 行動できる子	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特にペア学級との交流の中で、相手を思いやる姿が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学級が、より安心で居心地のいい場所になるよう、Q-U 検査等も活用しながら、児童の気持ちに寄り添った指導をしていきたい。
	○たくましく《体力向上》 心身ともに健康で 粘り強く取組む子	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校運動では積極的に校庭を利用して運動したり、児童会活動では休み時間にペア学級とスポーツで交流したり、身体を動かす機会を多く取り入れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降も、引き続き全校運動や児童会活動で全校が運動に親しむ時間を確保していきたい。コロナ禍でもできる運動を子どもたちに提示していきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止に留意しつつ、遠足、「西小スポーツデー」、高原学習、修学旅行等の行事を実施することができた。児童へのアンケート結果からも、97%の子どもたちから満足感、達成感の残る行事であったという回答が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもあるので、行事日程や学習内容に余裕を持たせ、子どもたちの負担感が増さないように配慮しながら、学校行事を実施していきたい。
		◇どの子ども安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特に1年生では、担任と特別支援担当職員との連携を密に取りながら指導にあたることができた。小学校という新しい環境の中でも安心して学校生活ができるように、その子に適した学びの場を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教師間での連携を密に取り、配慮すべき児童に対して共通理解しながら指導にあたっていく。 ・特に学年会では、お互いの学級における実践について情報交換を行い、教材研究を深めたり、教室環境を整える工夫を考えたり、一緒に学び合っていきたい。
	学習指導	◇協働的な学びの充実	教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々忙しい学校生活ではあるが、「相談週間」を設け、子どもたちとゆっくり話をする時間が確保できた。保護者からも、学校での取り組みに対して「よかった」という感想があった。 ・児童へのアンケート結果から、90%以上の児童が、「先生は話を聞いてくれる」という回答が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの方から心配事や不安感を相談してこない場合でも、必要に応じて教師から声掛けできるように、子どもたちの様子を注意深く見ていきたい。
			ジャンプのある課題設定ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・村瀬先生のご指導を受ける中で、「ジャンプ課題」という応用問題を授業に取り入れるようにしてきた。子どもたちが意欲的で楽しそうに問題に取り組む姿が、多く見られるようになった。 ・まだ、「ジャンプ課題」の内容、取り組ませ方、友との関わり方等については、試行錯誤の段階である。1学期は、まず実践してみるという段階であった。実践してみたの問題点を整理し、今後に活かしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に、本年度2回目となる村瀬先生のご指導がある。1学期の実践をもとに、より探求型の学習になるように改善していきたい。そして、「ジャンプ課題」について、内容や取り組ませ方で疑問に感じている点について研修を深めていきたい。
			友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・友だち同士で相談したり説明し合ったりする場を増やすことで、子どもたちが楽しみながら学習し、生き生きとした姿が増えてきた。 ・グループ学習を取り入れたことで、普段なかなか発言できなかった子ども、グループの中で自分の考えを伝えることができた。 ・まだ、「学びを深める」という点においては課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで、どのように友だち同士を関わらせると「学びを深める」ことにつながるのか、実践を通して研修していきたい。

教育活動	学習指導	◇体育学習の充実	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にとっては初めてのプール学習だった。初めてのうちは怖がったり、顔をつけられなかったりした子もいたが、水遊びを通して水になじむことができた。 ・アンケートの結果から、子どもたちの9割以上が「体育は楽しく運動できている」という回答が得られた。しかし、教師側の評価とすると「まだ十分に体を動かした運動ができていない」と感じている割合が3割ほどある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降はプール学習も終わり、熱中症の危険も低下する。感染対策を十分にしておき、体をしっかり動かす運動をしたり、校庭を走ったり、体力向上に向けた取り組みをしていきたい。また、運動固有の楽しさに触れるための指導方法について教材研究を深めていきたい。 ・1学期に行った体力テストの結果もふまえて、体力向上に必要な運動を取り入れていきたい。
	生活指導	◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への「学校生活アンケート」の結果では、「クラスではいじめや差別がなく、仲よく生活できているか」の問いに対し、「そう思う」が44%、「だいたいそう思う」が36%と、8割の児童はおおむね楽しく学校生活を送れている様子がうかがえる。しかし、2割の児童にとっては、安心できる居心地のいい学級になっていないという結果でもある。これは、今後の課題といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期には、三中ブロック人権同和教育研修会で本校が授業公開を行う。また、人権教育に関わる参観授業やPTA 人権講演会も予定されている。このような機会を通して全校で人権意識を高め、いじめや差別のない学級を目指していきたい。
		◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学級との交流を計画し、実際に交流することを通して、相手のことを考える気持ちをもつことができた。 ・1学期は3つの学年と交流できたクラスもあった。交流前は「この計画で大丈夫」と思っていたが、実際に交流してみると自分たちの思っていることが上手く伝わらず、子どもたちにとっては表現したり、伝えたりすることの難しさを学ぶことができた。 ・学年によっては、行事等で忙しく、ペア学級と十分に交流できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会行事だけでなく交流の機会がもてるように、学年会でも時間確保を検討していきたい。 ・2学期は、「西小アドベンチャー」や「なかよしタイム」などの行事も計画されている。交流活動の柱として、ペア学級と、よりつながりを深めていきたい。
学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生は、身近にある水路や上田城などを教材にして学習することができた。 ・5年生は田植え作業を体験することができた。しかし、米作りに関してそれ以外になかなか学習時間が取れず、田んぼの水がどこから来るのか確認するだけに終わってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は米作りの作業だけでなく、米作りを通して地域を知る学習につながるような取り組みをしていきたい。 ・西部地域で作成されたデジタルマップ等も活用しながら、子どもたちの実態に即して、身近な疑問から学習テーマを見つけていきたい。
		◇地域ボランティアの支援	新型コロナウイルスの感染防止に努めながらボランティア活動を進めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぶんぶんぶん」の方々に読み聞かせに入っただき、大変ありがたかった。子ども達もとても楽しみにしている。 ・クラブ活動では、2年間、外部講師による指導を休止していたが、本年度は実施することができた。子どもたちの多様な興味・関心に応じたクラブを開設することができた。1回90分間という活動時間を確保し、じっくりと楽しく活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き感染状況を見ながら、可能な範囲でボランティアの方々に支援をお願いしていきたい。 ・子どもたちに、ボランティアの方々が、いつ、どのような活動で支援してくださっているのか度々伝えながら、感謝の気持ちをもって学校生活が送れるようにしたい。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は、村瀬先生を招いての「授業研修会」ができた。また、職員研修として「学級経営を語る会」「授業を語る会」「個別の指導計画作成」等を行った。 ・互いの授業を見合うという点では、見合う場はあっても、なかなか自分のクラスの授業をあげられず、気軽に見合うということが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見合う場として、全職員が周知して行う公開授業だけでなく、学年会単位で声を掛け合ったり、1時間全てではなく短時間の参観であったり、少しでも気軽に授業を見合う場と意識を作っていきたい。